万博後の大阪の将来像へのアプローチの考え方

資料4

大阪の将来像

基本的な考え方

持続的な成長 ― 世界に貢献 ― 豊かなくらし

【WG委員の意見（主な視点）】
○人間にフォーカス　○多様性　○技術と人の共生　○住みやすい
○経済的視点　○Innovative　○No border　○若者が集まる

【事務局（案）：将来像のキーワード】
◆先端技術と人が共生する社会
➢「生」を第一に、互いに思いやり、「共」に創る「ヒューマン都市」
➢ＡＩ、データが人々の健康・暮らしを支える「ウエルネス都市」
➢ウエルネス×ライフサイエンス×クリエイティブ
➢ロボットが行き交う「ユニークネス都市」
➢世界を惹きつける（新たな価値の創出等）「クリエイティブ都市」

大阪の歴史の厚みやポテンシャルを活かす

世界都市の潮流、過去の万博の検証、今後の将来予測を踏まえる

4.世界の都市

(1)世界の都市論の系譜（世界都市仮説、創造都市等）
(2)世界の都市論における大阪の記述（大阪に関する目立った記載なし）
(3)シンクタンク等による大阪のポジション分析（国内成長エンジン）
(4)各都市のモデル（コペンハーゲン、シアトル、バルセロナ等）

5.過去の国際博覧会等

(1)国際博覧会の歴史（国威発揚型 → 課題解決型）
(2)1970年大阪万博の評価（新技術開発、府民意識の高揚等）
(3)その他万博開催都市における効果（地域の発展、インフラ整備等）
(4)2025年大阪・関西万博

6.今後の将来予測

(1) SDGｓと今後の将来予測（万博とSDGsの関係を踏まえて整理）
(2)世界の人口予測から見えること（人口増加・減少地域等）
(3)人口増加等に伴う世界の課題（貧困・食料不足等の追加課題）
(4)高齢化の進展等に伴う世界の課題（認知症、生活習慣病等）
(5)人口減少・少子高齢化に直面する日本・大阪の課題（介護、遊休資産等）
(6)科学技術の進展（利便性の向上と負の側面）

3.現在の大阪の位置・ポテンシャル

(１)経済（大大阪時代からの大阪経済の動き）
(２)大阪産業の強み等（ライフサイエンス産業、新エネルギー産業等）
(３)人口（古代からの人口推移と近年の転入・転出等）
(４)暮らし（家族形態の変化、府民所得、健康寿命、教育、文化等）
(５)都市インフラ（交通ネットワーク、インフラの老朽化、空家、災害対応等）
(６)国際化への対応（留学生、外国人材の受入、国際会議の誘致等）
(７)ＳＤＧｓから見た大阪（国際的な日本の評価と国内評価でみた大阪）

【大阪の強み・弱み】

強み	○バランスの取れた産業構造　○ライフサイエンス、新エネルギー産業 ○交通インフラの充実　○災害対応力　○大学等の集積 ○文化等の蓄積　○アジアを中心とする世界とのつながり
弱み	○東京圏への人口流出　○情報発信力の低下　○国際化への対応 ○さらなるイノベーションの促進　○女性・高齢者・障がい者の低い就業率 ○平均寿命と健康寿命の差　○都市におけるみどり不足　○教育

1.大阪の歴史

(1)都市の形成過程（古代～戦前）
・内外から多くの人が集まり都市を形成。
・盛衰を繰り返すが、国内外から人を呼び込み、イノベーションを起こし都市を再生
(2)戦後から昭和の大阪
・高度経済成長期の中、重化学工業へ産業構造を転換。人口も拡張。
・その後、産業構造転換の遅れや、東京への本社機能移転等で地位は低下
(3)平成の大阪
・バブル崩壊により、停滞期が継続。
・近年、輸出額の増やインバウンド増により、緩やかに回復基調

2.歴史から導かれる大阪の特色

(1)都市圏の形成過程
・大阪の中心部が、古代から現代まで変わらない大阪の中核
(2)海外とのつながり
・アジアを中心に海外とつながりを通じて、都市が発展
(3)大阪の先駆性
・新たな経済システムや世界標準となる製品を数多く生み出し
(4)気質・府民意識
・進取の気質、開放的、実力主義、社会貢献の精神